

# 組み合わせ

## 成年男子の部

都県	監督	選手	都県	監督	選手
東京	榎本 正一	1 ロンギ 正幸	千葉	森 二郎	1 竹内 遥丞
		2 竹島 駿朗			2 大和田 秀俊
栃木	阿久津 定之	1 大橋 可宏	茨城	沼尻 満男	1 平岡 伸雄
		2 鈴木 佳太			2 鈴木 光
群馬	福井 保次郎	1 山口 優治	山梨	小林 繁	1 中込 優介
		2 中村 祐樹			2 矢崎 頼
神奈川	黒田 隆之	1 大友 優馬	埼玉	原田 正明	1 松尾 友貴
		2 喜多 文明			2 佐藤 博康

### 成年男子の部 Aブロック

1	東京都	東京 2 - 0	東京 2 - 1	決勝2県通過
2	栃木県			
3	群馬県	神奈川 2 - 1		
4	神奈川県			

### Bブロック

5	千葉県	千葉 2 - 0	埼玉 3 - 0	決勝2県通過
6	茨城県			
7	山梨県	埼玉 2 - 0		
8	埼玉県			

### 各ブロック4位決定戦 Aブロック

Aの敗者	栃木県	群馬 2 - 0	通過
Bの敗者	群馬県		

### Bブロック

Cの敗者	茨城県	茨城 2 - 0	通過
Dの敗者	山梨県		

### 8位決定戦

Gの敗者	栃木県	栃木 2 - 0	通過
Hの敗者	山梨県		

# 試合記録

成年男子の部

Aブロック 1 R				Bブロック 1 R					
A	東京	対	栃木	C	千葉	対	茨城		
S 1	ロンギ 正幸	8	6	大橋 可宏	S 1	竹内 遥丞	8	3	平岡 伸雄
S 2	竹島 駿朗	8	4	鈴木 佳太	S 2	大和田 秀俊	8	5	鈴木 光
D		2	0		D		2	0	
1 R				1 R					
B	群馬	対	神奈川	D	山梨	対	埼玉		
S 1	山口 優治	2	8	大友 優馬	S 1	中込 優介	4	8	松尾 友貴
S 2	中村 祐樹	9	7	喜多 文明	S 2	矢崎 頼	5	8	佐藤 博康
D	山口・中村	8	9	大友・喜多	D		0	2	
	( T B 6 - 8 )	1	2						
Aブロック F				Bブロック F					
E	東京	対	神奈川	F	千葉	対	埼玉		
S 1	ロンギ 正幸	8	6	大友 優馬	S 1	竹内 遥丞	6	8	松尾 友貴
S 2	竹島 駿朗	8	3	喜多 文明	S 2	大和田 秀俊	2	8	佐藤 博康
D	ロンギ・竹島	2	8	大友・喜多	D	竹内・大和田	6	8	松尾・佐藤
		2	1				0	3	

各ブロック4位決定戦

Aブロック				Bブロック					
G	栃木	対	群馬	H	茨城	対	山梨		
S 1	大橋 可宏	2	8	山口 優治	S 1	平岡 伸雄	8	1	中込 優介
S 2	鈴木 佳太	7	9	中村 祐樹	S 2	鈴木 光	8	6	矢崎 頼
D		0	2		D		2	0	
8位決定戦									
I	栃木	対	山梨						
S 1	大橋 可宏	8	3	中込 優介					
S 2	鈴木 佳太	9	8	矢崎 頼					
	( T B 7 - 3 )								
D		2	0						

栃木県テニス協会  
総監督：阿久津定之

1. 大会概要

- ・日程 平成26年8月1日(金)～8月3日(日)
- ・会場 栃木県総合運動公園テニスコート
- ・主催 公益財団法人日本体育協会・栃木県・関東テニス協会  
宇都宮市
- ・主管 栃木県教育委員会・栃木県体育協会・栃木県テニス協会  
宇都宮市教育委員会・宇都宮市体育協会
- ・後援 文部科学省

2. 試合方法

- ・ダブルス1ポイント、シングルス2ポイント、合計3ポイントによる対抗戦。
- ・試合は、各種別とも都道府県対抗のトーナメント方式で行う。
- ・試合はすべて8ゲームズプロセット、セミアドバンテージ方式とする。
- ・試合は1回戦より勝敗決定後に打ち切りとする。

3. 参加監督・選手・トレーナー

総監督：阿久津定之

1. 成年男子 監督：渡邊千鶴 選手：鈴木佳太 大橋可宏  
トレーナー：吉村健児

4. 試合結果

■成年男子 1回戦 対 東京都：8月2日(土)

	栃木県	0－②	東京都
S 1	大橋可宏	●6－8○	ロンギ正幸
s 2	鈴木佳太	●4－8○	竹島駿朗
D	鈴木佳太 大橋可宏	打ち切り	ロンギ正幸 竹島駿朗

■成年男子 1回戦敗者戦 対 群馬県：8月2日(土)

	栃木県	0－②	群馬県
S 1	大橋可宏	●2－8○	山口優治
S 2	鈴木佳太	●7－9○	中村祐樹
D	鈴木佳太 大橋可宏	打ち切り	山口優治 中村祐樹

■成年男子 7位決定戦 対 山梨県：8月3日(日)

	栃木県	②-0	山梨県
S 1	大橋可宏	○8-3●	中込優介
S 2	鈴木佳太	○9-8● (3)	矢崎 頼
D	鈴木佳太 大橋可宏	打切り	中込優介 矢崎 頼

## 5. 所感

昨年は、関東ブロック大会が無く、2年ぶりの大会となった。

今年は成年女子の関東枠は8枠で関東予選はなく、成年男子のみ予選が行われた。関東枠は8枠中、7枠あり関東で本国体に出られないのは1チームのみである。また、今回は地元開催ということもあり、何とか出場したい思いが強かった。

多くの応援団が見守る中、初戦の対戦相手は、今回第1シードの東京都で2人ともプロの選手です。本国体に出場しても優勝をできる力のある対戦相手だけにどれだけ通用するか楽しみな初戦でした。梅雨も明け、気温も高く、選手にとっては過酷な日でした。シングルス1の大橋選手の対戦相手は現在28位で今回出場している選手の中では、一番ランキングが高い選手です。序盤は、ロング選手のミスが目立ち6-3で大橋選手がリードしそのまま逃げ切るかと思われたが、そこから大橋選手も攻め急ぎ、ミスが目立ち、逆にロング選手が5ゲーム連取し6-8で勝負をつけられた。シングルス2の鈴木選手は2-7から粘って2ゲーム連取したが、4-8で落としてしまい0-2で初戦を落とした。

続く、敗戦者同士の対戦は群馬県で、初戦、シードの神奈川県と接戦を繰り広げ、最後のダブルスがタイブレークまで纏れたため、体力的にも精神的にも有利に進められると予想したが、想像以上に体力もあり、むしろ、まったく疲れを感じさせないプレーでした。大橋選手の対戦相手の山口選手は、早い打点で攻撃し、そのボールもほとんどミスが無く、大橋選手は、相手のプレーに翻弄され自分のテニスができないまま6ゲーム連取され、ようやく自分のテニスもどりかけたが、山口選手のショットがいいところで決まり、2-8と振り切られた。シングルス2の鈴木選手は中盤まで五分五分の展開でしたが、最後は7-9で敗れ、最後の試合にチャンスを賭けることになった。

2日目、最後の1枠を賭けて対戦する相手は山梨県、お互い負けられない試合となった。シングルス1の大橋選手は、序盤から自分のペースで試合運び、相手のミスを誘い優位に試合を展開し8-3で先に1勝し大手を賭けた。シングルス2の鈴木選手は、接戦となり試合はタイブレークまでもつれ、どちらが勝ってもおかしくない試合となった。最後は鈴木選手が相手のチャンスボールを逃さず攻め、タイブレークを7-3で振り切り本国体出場を決めてくれた。

今回の大会は地元開催ということもあり、本国体に出場できたのも、皆さんの応援のおかげだと思っております。また、暑い中、3日間にわたり運営をしていただいた役員の皆様には心から感謝を申し上げたいと思います。

これで本国体には全種目参加できることになり、1勝でも多く勝ち、最後まであきらめず、上位を目指して頑張ってもらいますので、今後とも応援をよろしくお願い致します。